

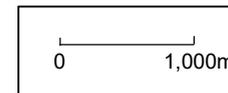
国際コンテナ戦略港湾における 大水深岸壁の利用状況

令和2年11月12日
国土交通省港湾局

【国際コンテナ戦略港湾のコンテナバース数(16m以深)と規模比較】

	国際コンテナ戦略港湾	
	京浜港	阪神港
16m以深のコンテナバース数	15	7
コンテナ取扱個数(万TEU)	816	533

・バース数は2020年10月時点
 ・コンテナ取扱個数は港湾管理者調べ(2019年暦年データ)



京浜港

<横浜港 MC1-2-3-4、BC1、D4、D5>

南本牧ふ頭

本牧ふ頭



延長：700m
水深：16m

延長：900m
水深：18m



延長：1,090m
水深：16m

<東京港 Y2>

中央防波堤外側
外貿コンテナふ頭



延長：400m
水深：16m

阪神港

<神戸港 PC15-16-17、PC18、RC6-7>

ポートアイランド地区

六甲アイランド地区



延長：1,550m
水深：16m



延長：800m
水深：16m

<大阪港 C12>

夢洲地区



延長：650m
水深：16m

※航路水深は15m

対象岸壁と確認ポイント

<対象岸壁>

国際コンテナ戦略港湾の水深16m以深のコンテナバース(計13バース)

供用後間もない東京港Y2及び横浜港MC4は含めていない。

横浜港 : 本牧(BC1、D4、D5)、南本牧(MC1-2、MC3)

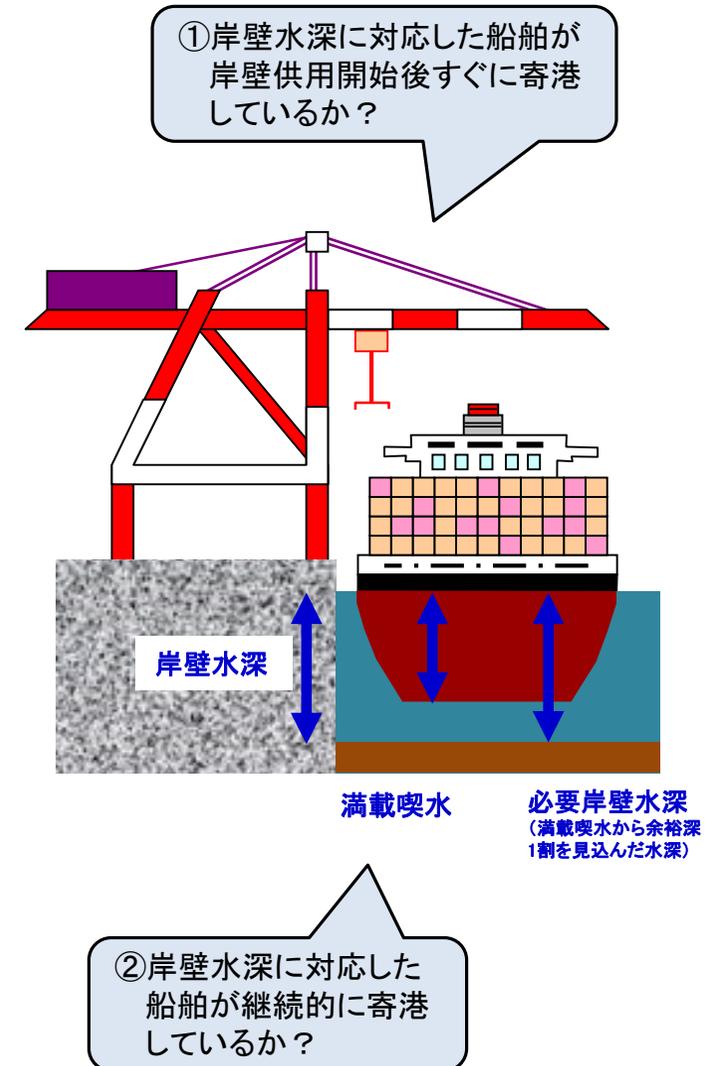
大阪港 : 夢洲地区(C12)

神戸港 : ポートアイランドⅡ期地区(PC15-16-17、PC18)

六甲アイランド地区(RC6-7)

<確認ポイント>

- ① 岸壁水深に対応した船舶の寄港開始時期
- ② 岸壁水深に対応した船舶の継続寄港状況(供用開始以降)



計13岸壁を確認(供用後間もない東京港Y2及び横浜港MC4は含めていない)

①岸壁水深に対応した船舶の寄港開始時期(※)

供用前または供用開始後1年以内に岸壁水深に対応した船舶が寄港した岸壁

➡ 13岸壁中 **12岸壁**

②岸壁水深に対応した船舶の継続寄港状況(供用開始以降)(※)

供用開始以降の全期間にわたって、岸壁水深に対応した船舶が寄港している岸壁

➡ 13岸壁中 **8岸壁**

- 確認した13岸壁のうち、①、②に取り上げられなかった岸壁には、
 - ・ 所要の岸壁延長が確保されていない岸壁
 - ・ 所要の航路水深が確保されていない岸壁
 が含まれる。
- 上記①、②の確認の両方で取り上げられた岸壁のほとんどは、複数の連続岸壁で一体利用されている。

- ほとんどの岸壁では、供用開始前・直後から、岸壁水深に対応した船舶の寄港が開始されている。
- 複数の連続岸壁を一体利用している岸壁は、岸壁水深に対応した船舶が継続的に寄港している。
- 岸壁延長、航路水深が整っていない岸壁や、船舶の離着岸に制限がある岸壁もあり、引き続き、所要の港湾整備や複数岸壁の一体利用を進めていく必要がある。

※ 当該岸壁に就航した定期航路サービスを構成する船団のうち最大船型の船で確認。
 注) 一部の岸壁では、当該岸壁のみで確認できないため、隣接する岸壁を含めて確認。